

立山町の

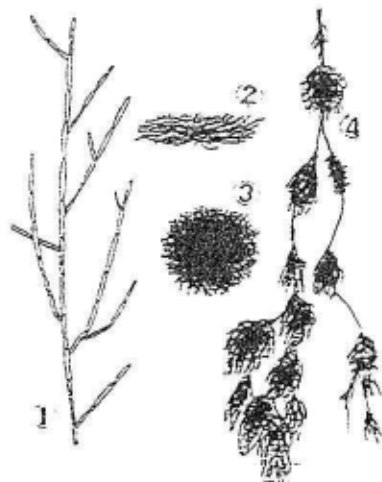
タテヤママリモ

タテヤママリモ

マリモといえば、ふつう、丸い形をした緑の藻を思い浮かべますが、実際は糸のような細い藻で、これがたくさん集まって丸くなっているのです。1本抜き取って顕微鏡で見ると、緑色の細長い細胞がつらなりあっています。ところどころから枝もでてきます。形が糸に似ていることから、これを糸状体と呼んでいます。

またマリモはすべて丸くなるかというと、そうではありません。綿毛状に集まったもの、あるいはフェルト状に石などに着生したものなどさまざまですが、どちらかというと丸くならないものの方が多いのです。大きくて美しいことで有名な、阿寒湖のマリモでさえも、丸くなるのは全体の15パーセントにすぎないといわれています。多くは波の静かな湖の底で、芝生をしきつめたように生育しているそうです。

ところで昨年立山町で見つかったマリモは、どのように生育しているのでしょうか。見つかったところは北陸自動車道立山インターの近くです。ここ一帯は常願寺川扇状地にひろがる水田地帯で、緑の林に囲まれた家々が点々とあります。マリモはこうした家の小さな池に生育してい



1 糸状体(×15) 2 綿毛状のもの(×1)
3 球状のもの
4 木の根に着生したもの(×1/3)

るのです。池には大小さまざまなコイやイワナがいます。今まで知られている阿寒湖、山中湖などは、すべて天然の大きな湖ですが、人工の小さな池で見つけたのは、ここ立山町が初めてです。

最初に見つけた広明正一さんの池は、長さ6.2m、幅2.7mで、まん中に直径1mの島があります。水源は地下水で、島のくぼみにたえまなくといから落ちています。水温は年中ほぼ一定で約13.5度C、水はきれいですきとおっています。この立山町のマリモもすべてが丸くはありません。糸状体が水中の木の根や、石などに着生しているもの、あるいは池の底に沈んでいるものなどです。沈んでいるものは綿毛状のマリモと丸いマリモです。これらは軽くて、コイが口をパクパクして餌をあさったり、あるいは泳いだりすると、その水流でたちまち動いたり回転したりします。

一般にマリモは、水流によって丸くなるといわれています。たとえば阿寒湖では波や、湖に流れ込む川の流れが、また、山中湖や河口湖では湖の底から湧き出る地下水が、マリモを回転させて丸くするといわれています。ところで立山町の池の場合、なにがそれを丸くさせるのでしょうか。池は小さくて大きな波はたちません。また底から湧き水も出でいません。といの水は島のくぼみに落ちているのでそれほどの水流はありません。どうやら池のコイがパクパク起こす水流が、マリモを丸くさせているようです。(長井奥隆)



富山市科学文化センター

富山市西中野町1丁目8番31号 (〒939)

電話 富山(0764) 91-2123(代表)

昭和63年7月1日 発行

7月24日に科学文化センターで、科学祭りを行います。
ぜひ、ご来館下さい。